

患者目線で考える 妊孕性温存

～患者は何を求め、医療者は何ができるか～

若くしてがんにかかれたとき、
がん治療のことと自分自身の妊娠する力について考えなければなりません。
実際にごん治療と妊孕性温存を体験されたがんサバイバーの方、
がん治療医、妊孕性温存を担当する生殖医療専門医とともに、
患者目線での妊孕性温存について考える市民公開講座です。

東京都及び港区
後援申請中

参加
無料

2018.
5/20日
10:00-12:00
[開場] 9:30

会場

ザ・グランドホール
[品川駅港南口から 徒歩5分]

プログラム

セミナータイトル/出演者



「がんサバイバーと一緒に考える、妊孕性温存とその後」

黒田 朋子 様 (株式会社ライフサカス)



「血液・腫瘍内科領域におけるがん・生殖医療(仮)」

杉本 耕一 先生 (JR東京総合病院 血液・腫瘍内科 副院長)



「妊孕性温存で今できること、これからの課題」

京野 廣一 先生 (京野アートクリニック高輪 理事長)

講師のみなさん



「がんサバイバーと一緒に考える、妊孕性温存とその後」

黒田 朋子 様

株式会社ライフサカス取締役・デザイナー

京都市立芸術大学大学院美術研究科環境デザイン専攻修士課程終了(在学中にNova Scotia College of Art and Design交換留学)。株式会社イシマル、有限会社キュリオシティにてOMA、プラダ、コムデギャルソンなど、インテリアデザイナーとして国内外のブティック、レストラン、家具、アートディレクションを含めたプロジェクトに携わる。2009年QUAILS設立、フリーランスデザイナーとして活動開始。2011年、大病を機に「今日1日を楽しく生きる」ことの大切さを思い知る。今日が人生で最後の1日だとしたら自分ではない誰かのために在りたいという思いからライフサカスを共同創業。「不妊治療」や「がん」をテーマに、当事者の人生を応援するサービス・プロダクトを生み出しています。



「血液・腫瘍内科領域におけるがん・生殖医療(仮)」

杉本 耕一 先生

JR東京総合病院 血液・腫瘍内科 副院長

東京大学医学部医学科卒業後、同大学院にて博士号(医学)取得。Geneva大学理学部分子生物学科にて助手を務め、順天堂大学医学部内科学教室・血液学講座にて前任准教授等を経て、平成24年にJR東京総合病院血液・腫瘍内科の部長に就任し、その後平成28年には同院副院長に就任。専門分野は、貧血およびリンパ節腫脹の鑑別診断、悪性リンパ腫、慢性リンパ性白血病、骨髄増殖性腫瘍。



「妊孕性温存で今できること、これからの課題」

京野 廣一 先生

京野アートクリニック高輪 理事長

1978年に福島県立医科大学を卒業し、東北大学医学部産科婦人科学教室入局。1983年、チームの一員として日本初の体外受精による妊娠出産に成功。1995年7月にレディースクリニック京野(大崎市)、2007年3月に京野アートクリニック(仙台市)を開院し、2012年10月に京野アートクリニック高輪(東京都港区)を開院する。

会場

ザ・グランドホール [品川駅港南口から 徒歩5分]

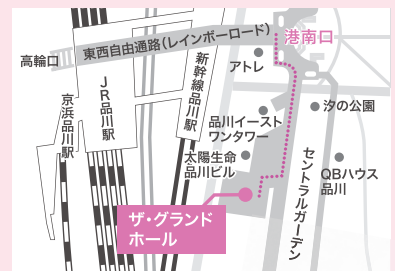
〒108-0075

東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー3F

対象

医療関係者、20-40代の一般の方

お申込み・お問い合わせ



お申込みURL

<http://nin-event.jp>



お問い合わせ

info@nin-event.jp

FAXでお申込みの場合は以下をご記入の上、ご送ください。

FAX

03-6408-4702

患者目線で考える妊孕性温存 ～患者は何を求め、医療者は何ができるか～

日時 2018年5月20日(日) 10:00-12:00(開場 9:30)

所属			
氏名	申込人数	名	